

経営比較分析表

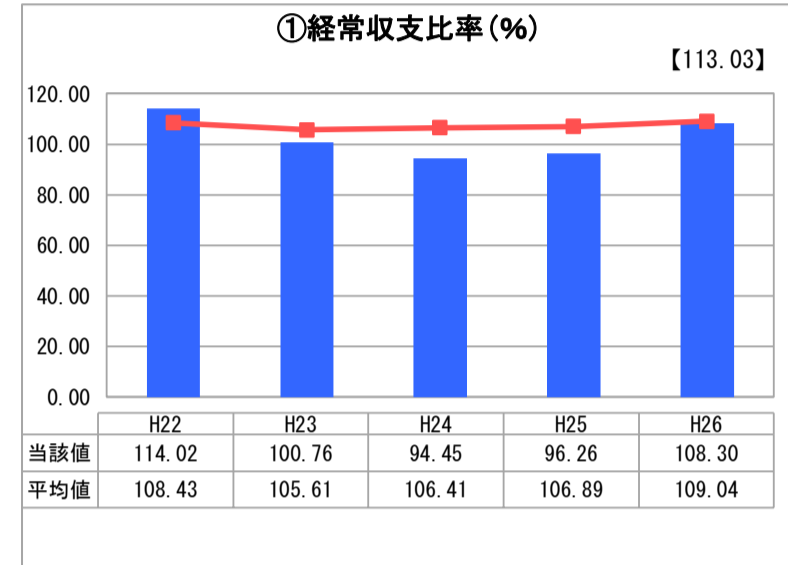
島根県 斐川水道水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A5
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	48.51	98.24	2,647

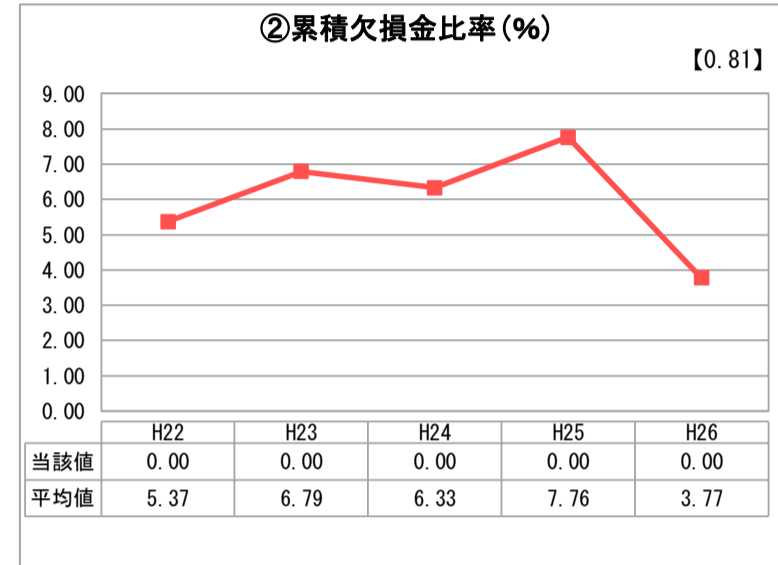
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
36,888	82.00	449.85

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成26年度全国平均

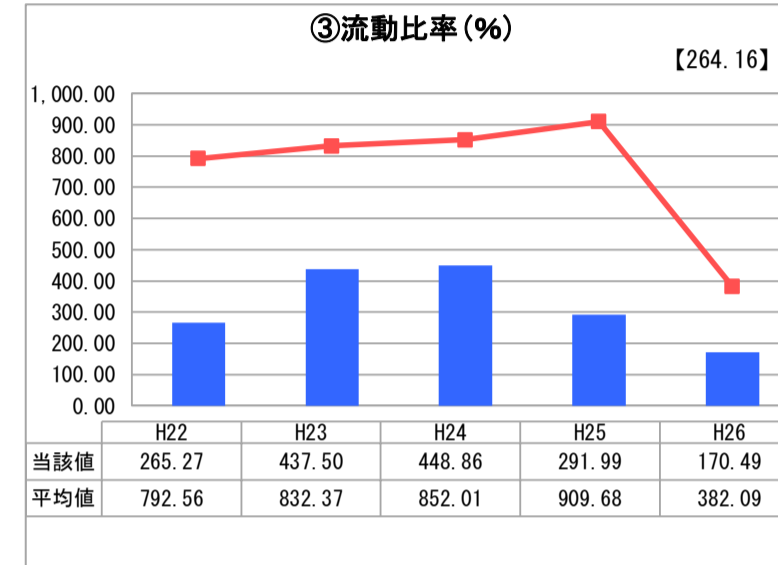
1. 経営の健全性・効率性



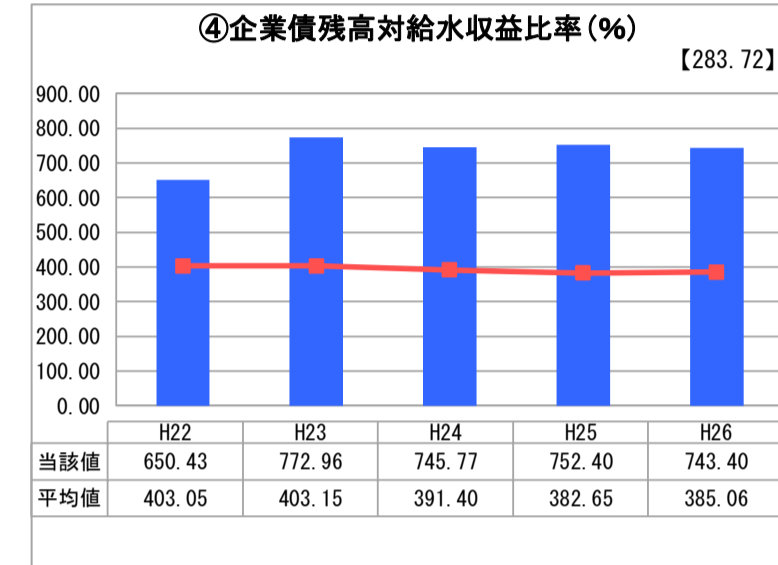
「経常損益」



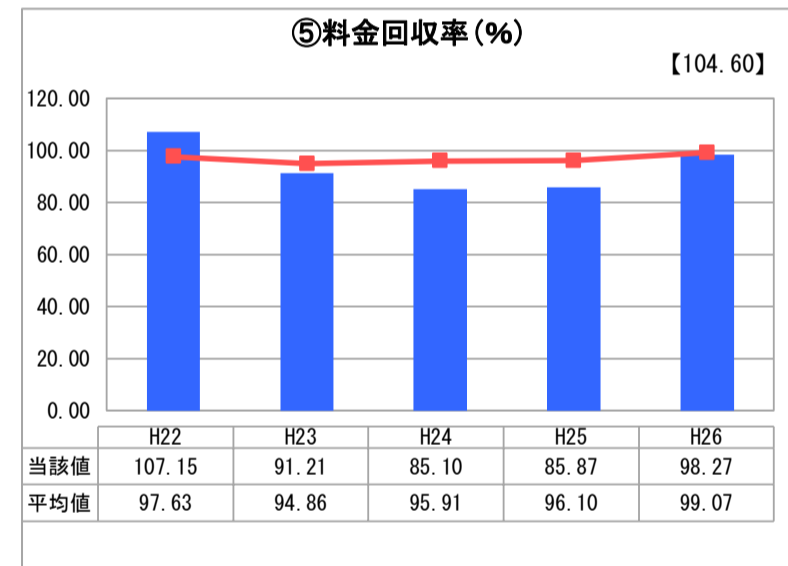
「累積欠損」



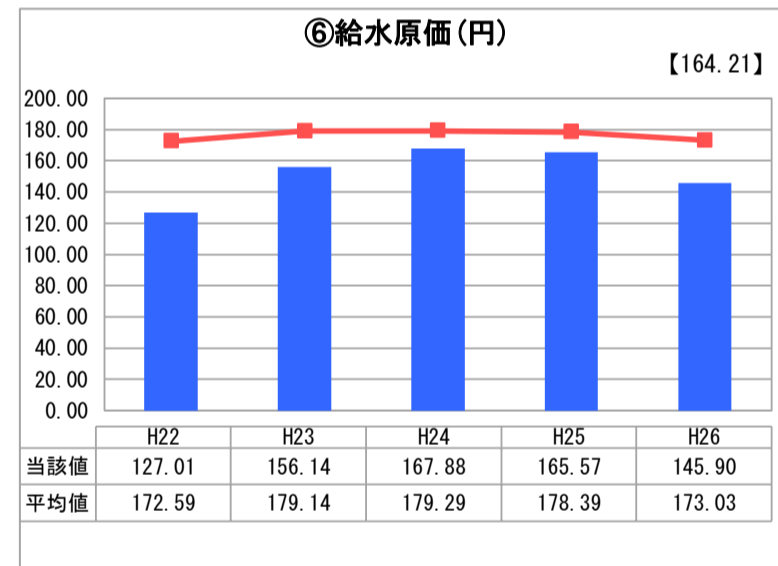
「支払能力」



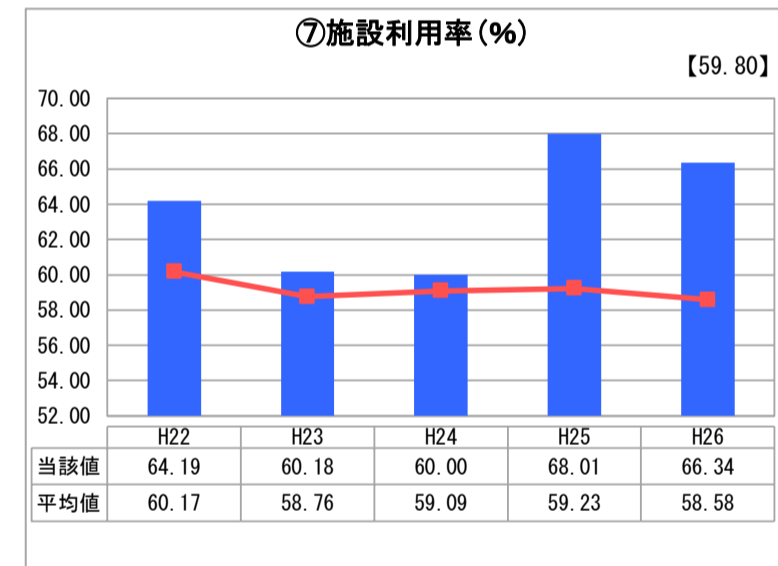
「債務残高」



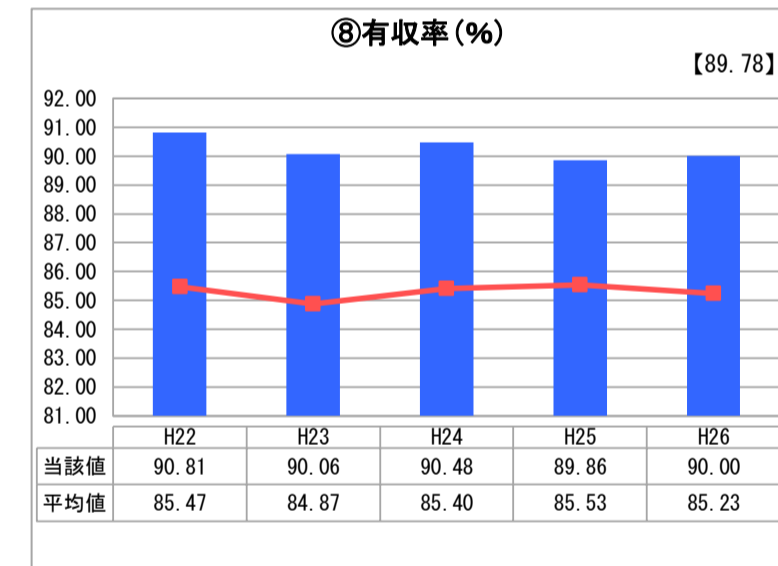
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

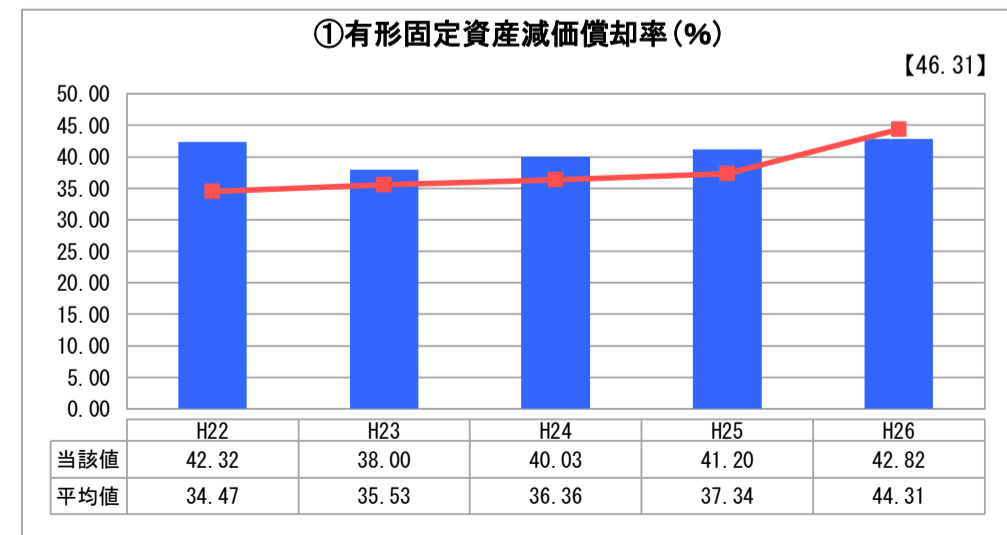


「施設の効率性」

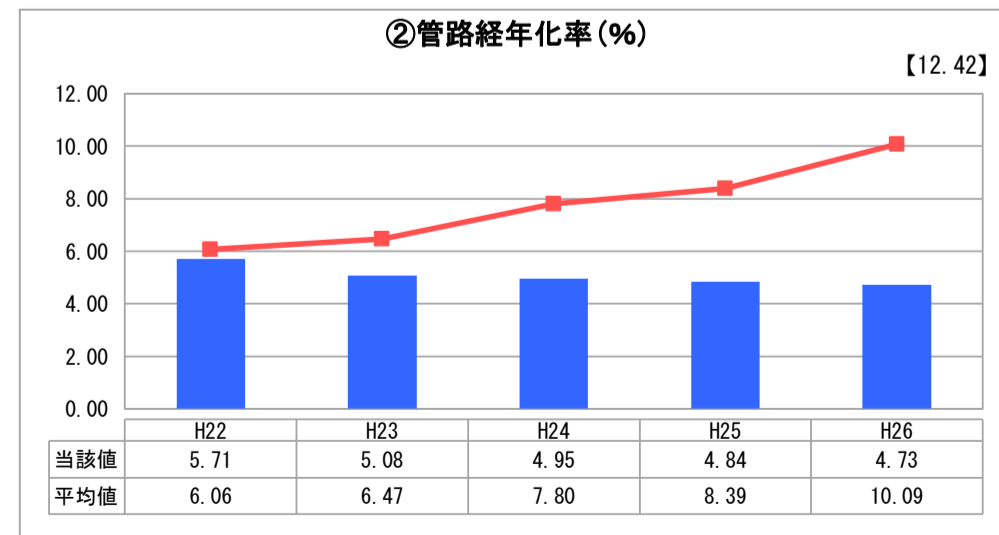


「供給した配水量の効率性」

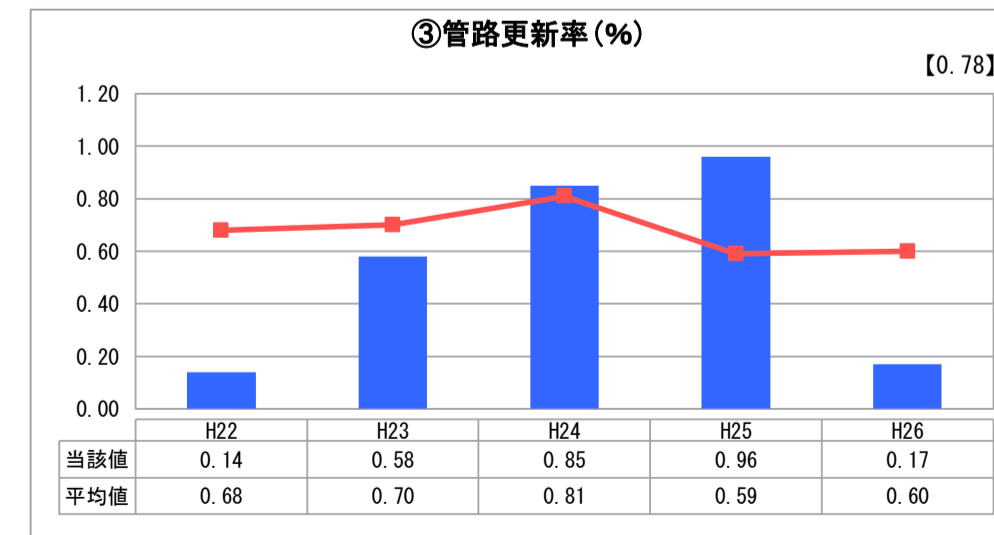
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

26年度収支は黒字となったが、将来、管路や設備の更新時期をむかえた時、多額の費用が発生することが予想される。この財源を確保するためにアセットマネジメント(資産管理)手法を活用することにより更新時期と更新費用を予測し、その結果を踏まえ今後10年間の「財政計画」を策定した。今後この計画に基づき、厳しい環境ではあるが引き続き健全経営を行いたい。

施設の改良、更新を進めた結果、企業債残高が多くなり、流動比率も全国平均値や類似団体と比較すると低い率となっているが、100%を上回っているため短期的な債務に対する支払い能力は備わっていると見える。

効率性については、給水に関し給水原価が全国平均値や類似団体と比較し安価であることや、施設利用率も同じく比較した場合に高い数値となっていること、有収率も比較して高い数値であることから効率的に給水を行い、収益に結びついていると言える。

2. 老朽化の状況について

資産の減価償却率は類似団体値、全国平均値と比較するとその数値は低いものの非常に近い数値となっている。また、管路経年化率や管路更新率もそれぞれ比較した場合、かなり低いことなどから法定耐用年数を経過した管路は少ない。

現時点では上記の状態ではあるが、アセットマネジメント手法による予測では、資産では20年後に急に老朽化資産が増え、管路では10年後から徐々に老朽化が進行していくと予想される。

全体総括

水道事業を取り巻く環境が厳しいなか、現時点ではかろうじて黒字経営を行っているが、今後老朽管路や老朽施設等の更新、改良が必要である。このためアセットマネジメント手法による予測や財政計画に基づき、さらに効率的かつ安定的な健全経営を行うこととしている。

将来、多額の更新費用が発生すると見込まれるなか、その財源を確保するため、更なる給水原価の改善や、料金水準の適正化などが今後の課題と思われる。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。